

---

# ゴミ廃棄用ロボット

Sorairo 光

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゴミ廃棄用ロボット

### 【コード】

N1046K

### 【作者名】

Sorairo 光

### 【あらすじ】

世界に一つ、ただ残されたロボット。

## (前書き)

少々残酷な場面もあるかもしれませんが、ゴミ回収用ロボットがやがてそのゴミ惑星化してしまった人類の住まない世界にただ一つ、残されてしまった物語です。

動かない灰色の世界に、ただ動き続けるものが一体。

それはかなり前に作られた旧式ロボット。

低電力で行動し、ゴミをエネルギーに変えるゴミ廃棄専用で作られたロボット。

この雲が立ち込める世界は、雲が立ち込めているのではなく、ただ汚染された空気が汚れの微粒子となって見えているだけである。

太陽などもう何世紀も見えていない。

だからロボットは知らない。

太陽を。

生まれたのも部屋の明かりの中で、人間に置き去りにされた。

そこに残るはただゴミばかり。

人間が汚した汚染物ばかり。

なのに、その星に人間はいない。

ロボットは置き去りにされた。

言葉もしばらく発していないせいで口はもう開けなくなってしまった。

長らくの強い酸性雨のせいで、左目も壊れて電気はつかない。

そのボディは溶けてきて、さび、だんだん原型から離れたボコボコした表面へと姿をかえていく。

ロボットは働き続けた。

もう人間がいらない世界でも、人間の命令に逆らうことなく、ゴミをエネルギー源に変えて、箱型の顔を大きく揺らしながら足の変わりについたローラーで歩きまわった。

どこに行ってもゴミだらけ。

自分が進んでいるのか、どちらに向かっているのか、それさえわからない。

あるのはどこも似たような廃墟と廃墟とも区別のつかない大量のゴミ。

ミだけ。

その中には同じロボットが横たわっている。  
電気供給がたっている今、動くロボットは自分<sup>これ</sup>一体。

残りのロボットは人間に近くて、肌にはほんの少しだけさびが浮き出  
ていなければ人間がただゴミ置場で眠っているように見えなくもな  
い。

でも、この世界に人間はいない。

人間は別の場所へ移動するといった。

そのうちに同じロボットからの情報網の電波を拾って戦争が起こっ  
たとも知った。

人間は少なくなったと聞いた。

他の星に移ったのか、あるいは全滅したのか。

いまや動くものは自分しかいなくなったロボットにはわからない。

電波を受信する機能があることは知っていた。

でも、ほとんど使われなまままで、耳と呼ばれるあたりにあった突  
起もいまや無い。

ボロボロになっても、人間がいなくなっても、それでもなお、人間  
が作ったプログラムに従い、動き続けた。

ある日、植物の小さなプランターをロボットは見つけた。

何を考えるでもなく、その鉢植えをもって、中の植物を覗き込んだ。  
葉っぱに一滴の雫が落ちてきた。

その一つ一つがしゅうとうという小さな音をたてはじめる。

ロボットはその植物になるべく雨が当たらないように棚の中に入れ  
た。

棚はさびびいて、大きさは少し小さな冷蔵庫ぐらいの大きさだが、  
残っているのが鉄の部分だけでもと何が何だったのかはわからない。  
い。

でも、ロボットは知っていた。

人間も植物も、酸性雨には弱いこと。

自分すらも溶けていること。

それからというもの、ロボットは毎日その植物に水を与え続け、ついに花が開いた。

自分と同じ、たった一つの花。

少し淡い感じの白い花。

その花を鉢植えごと愛しそうにロボットは抱きしめた。

“ロボットだぜ？置いていかれたって理解できやしないさ。いざとなればコイツもゴミだ。このガラクタの一部だぜ。”

誰かがそう言っただけだ。

みんなロボットに背を向けていた。

その中の確か男の“ヒト”だったと思う。

でも、ロボットは知っている。

一人になること、取り残された感情を……。

今、ロボットは、自分で考えプログラムにないことをしている。

だからこそ植木鉢を愛しそうに抱きしめる姿はきつと人間にも負けないだろう。

でも、ロボットは一人。

ずっと一人。

動き続ける限り一人。

だから気づかずにいた。

いつからこんな人間の思考に似た無駄なことをする自分が生まれたのか。

それに、今や酸性雨に汚染されていない水などありはしない。

なのにロボットは毎日ジョウロに水を入れて花に水をやっていた。

その花は人間に捨てられ、いつしか酸性雨にも抵抗ができた奇形の花。

なのにそれさえも気づかずに無駄なことをしていた。

でも、ロボットはその無駄なことさえ無駄なのだとわかっていない。

一部プログラムに逆らっていることも、プログラムがおかしくなっていることも。

そう、ロボットはもう、壊れていた。

でも、ロボットは一人。

壊れていることすら気づかない。

ロボットは一人。

ただずっとひたすらに、一人……。

この世界にもうロボットを認識するものはいない。

あるのは、奇形の生命体一つと、壊れたロボット一体だけだ。

O R P R O G R A M < < < E R R  
|

To have been detected, and to  
prevent damage to the computer,  
a part of problem was stopped.

6

if this is the first time you  
view this stop error screen  
restart your computer.  
this screen appears again, follow  
these steps:

The signal was not able to be  
perceived. The problem is  
answered automatically.  
It was not possible to transmit  
t . . .

(後書き)

たぶん、文章だけ読んでも理解しづらいと思います。

なんせ、私が作った文字のない漫画から文字だけの世界で精細を表そうとした作品なので。

英語は一部、直訳しないとわからないかもしれませんが、適当に流しておいてください。

漫画をPixivにあげましたので、アカウントもっていらっしゃる方はこちらをどうぞ

```
http://www.pixiv.net/member|il  
lust.php?mode=medium&amp;|illus  
t|id=11877188
```

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1046k/>

---

ゴミ廃棄用ロボット

2011年1月19日06時15分発行